



# 筑紫丘高校同窓会会報

第52号  
発行 筑紫丘高校同窓会  
福岡市南区野間2-13-1 電話092(561)0662  
FAX 092(561)0663  
ホームページ http://www.chikushigaoka-douseikai.com  
印刷 西日本新聞印刷



同窓会HP  
[QRコード]

## 校舎全面改築へ後押し

### 生徒の学び舎老朽化

会長 門司 稔

昨年(2012)は、本校創立八十五周年を迎えました。本部をはじめ各地で開催された総会は、総会実行委員会(高35)の皆様活躍により記録的な参加者数となり、盛会でありました。この一周年は、在校生支援のための「教育支援基金」の創設や東京・福岡における大学生等への就職活動支援など新たな事業を展開してまいりました。また、今春には女性の親睦の会が新たにスタートしようとしています。こうした会員各層にわたる幅広い活動の展開によって、同窓会活動への理解と参加が一層進むものと期待いたしております。



門司 稔 会長

年頭にあたりご挨拶申し上げます。近年における母校の発展は目覚ましく、私たち同窓生にとっては、喜ばしく、誇らしく思うところであります。同窓会の活動も足並みを揃えるかのように活動の幅は広がり、各種行事などへの参加者が増え続けております。これもひとえに常任幹事、各支部役員、学年幹事をはじめ、皆様のご尽力のおかげだと、役員一同感謝いたしております。

## 校舎改築準備会を開催

白石隆佳校長



平成25年(2013)の年頭に当たり、一言ご挨拶申し上げます。日頃から同窓会の皆様方に

は、本校の教育活動に対し物心両面にわたりご支援いただいていることに感謝申し上げます。昨年は、関西同窓会に参加させていただきましたが、百人を超える同窓生の皆様の、筑紫丘に対する大きな期待と激励のお言葉をいただき、あらためて筑高生の母校に対す

る熱い想いを感じさせていただきました。本校は5年後には創立90周年を迎えます。この90周年に向けて、校舎全面改築促進期成会準備会を11月末に開催いたしました。本館校舎を含めほとんどが築40〜50年を経過しています。また、過去のクラス増に伴い建て増し、建て増しのため、生徒達にとって非常に不便な思いをさせてい

ます。今後の校舎全面改築に向けた取り組みへ同窓生の皆様には、ご支援いただきますようお願いいたします。また、バリアフリーの関係で本館と第一棟の渡り廊下(グラウンド側)にエレベーターが付くことになりました。3月には完成する予定となっておりますので、ご利用される場合は事務室に連絡してください。

本年度も後、残すところ3カ月になりました。3年生は2次試験を目標に卒業式後も多くの生徒たちがそれぞれの進路実現に向けて学校に出ています。諸先輩たちを目標とし21世紀のリーダーとして、日本を「守護・開拓・創造」する筑高生の育成に職員一丸となって邁進する所存です。今後とも同窓生の皆様のご支援ご協力をお願いします。

ご支援ありがとうございます  
ついでに  
平成24年1月からお願いを始めた母校在学に対する教育支援基金には、平成24年11月30日現在174件293万5211円の浄財が寄せられ、これまでに24人の在学に支援を行いました。ご協力をいただきました方々に厚くお礼申し上げます。

まだまだ基金としては財源が不足しますので、今後とも皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。(ご芳名は4面掲載) (事務局)

## 校舎の全面改築に向けて

母校の校舎は、建築後40〜50年を経過して全体的に経年劣化が進み、学習環境は悪化の一途をたどっているのが現状です。このため、同窓会・

## 総会実行委員会、在校生へ支援金贈呈

平成24年度定期総会当番回(35回)代表は、昨年11月19日母校を訪れ、在校生への支援として30万円を、教育支援基金として50万円を白石校長ならびに門司同窓会長にそれぞれ贈呈しました。今年も同窓生の協力で三面の新聞広告を展開し、総会も千人を超える同窓生が集まって、盛大に開催することができました。収益を後輩の活躍のために役

立てていただきたいと贈呈されたものです。(事務局)

## 定期総会に向けて

平成25年度総会実行委員長 小島 洋(高36)



新年明けましておめでとうございます。副題は「筑高いくじえー」です。当日は千人を超える同窓生が来場いただけると期待しています。皆さんの筑高魂に火がつき、会場が一体になれるよう36回生一同、全力でおもてなし致します。今年一年の皆様のご多幸とご活躍を祈念いたしますと、同窓会の成功に向けて、皆様のお力添えをいただきたく、お願い申し上げます。

平成24年の総会で小野健太郎実行委員長(高35)から櫻を引継ぎました。よろしくお願いたします。平成25年の定期総会は、6月1日(土)。福岡市の「ホテルニューオータニ博多」にて会場は昨年同様「4階鶴の間」となっています。午後5時半から8時までの予定です。今年の総会テーマは「丘上

## 黄綬褒章受賞

高17回生 堤敏郎氏



平成24年春の褒章で、業務に精励して他の模範となる人に国から与えられる黄綬褒章を堤敏郎氏が受賞した。長年、造園業界の発展に尽力してきたことが評価された。氏は本校から東京農業大学造園学科に進み、卒業後造園会社勤務を経て昭和49年、福岡県みやま市に東山園芸場を設立。平成7年から県造園業協会の理事を務めている。大学在学中の昭和40年代、世の中が環境に関心をもち始めた頃(昭和46年、環境庁設置、「仕事を通じて環境問題に取り組もう」と決意し造園の世界へと飛び込んだ。「他人に優しく、自分に厳しく」をモットーに、地元のリオンズクラブに所属して奉仕活動に励み、また、NPO法人きよみず作業所の理事として、障害を持つ人々と共に歩くことを実践している。「これからも地球温暖化対策の一環として、人々の心の安らぎのため、緑の力を役立てることを目標に地域の緑化活動を進める」という。(松崎芳之 高17)



白石校長に在校生支援金を渡す小野実行委員長(右)

## 平成25年度に女子会発足へ

筑紫丘高校同窓会に女子部をつくる準備に入っています。「何で今さら女性部組織を？」というご意見もありま

《名称》「丘女会(おかめかい)」が第一候補です。ほかに60年ほど前に校章にナデシコが使われていたことから、きれいな名称の「なでしこの会」という案もあります。

《目的》①在校女子生徒への支援②社会への貢献③自己研鑽など。講演会、講習会、ボランティア、食事をなど、ためになる企画、楽しい企画を考えたいと思います。今後

# 中学生の体験入学

昨年9月28日、中学生の体験入学が行われました。参加者は中学生と保護者を合わせて945人で、昨年を百人以上も上回る大盛況でした。講堂での学校説明会の後、体験授業や部活動の見学、在校生との交流などさまざまなプログラムがあり、参加者は思い思いに校内を見学しました。当日実施したアンケートによると、特に好評だったのは説明会の中で行われた生徒会の寸劇です。学校生活の様子がよくわかりおもしろかったという声がたくさん寄せられました。また、案内などで対応した在校生がみんな親切で学校の良い雰囲気を感じたというおほめの言葉もいただきやはり、学校の一番の魅力は生き生きと活動する生徒たちなのだ、あらためて感じました。



筑高を訪れた中学生たち

秋山晋一(高49・教諭)

# 102名が集う

## 関西支部同窓会

昨年10月21日、大阪市のホテルグランヴィア大阪にて関西支部総会・親睦の集いを開催しました。ラグビー部全国大会出場をきっかけに発足した関西支部総会も、今年で29回目を迎えました。

今回は関西以外の岡山、愛知県、東京から運営応援に駆け付けてくれた35・36回卒生も含め、高4回から高63回まで総参加数102名(二次会からの参加者含む)と、関西支部としては久しぶりに百人を超える盛大な会となりました。



来賓として白石校長、門司同窓会長、伊藤副会長、加藤事務局長をお迎えし、白石校長から母校の近況、門司会長から同窓会活動状況のご紹介、伊藤副会長から喜寿・還暦記念品贈呈を行っていただきました。

筑紫丘高校同窓会、親睦の集い

# 首都圏総会に384人

平成24年度の首都圏同窓会の総会・懇親会が昨年11月3日、目黒雅叙園「舞扇」で開催されました。今年のテーマ「待とうよ!」のもと総勢384人が参加し、大盛況でした。

総会では、大学生が集う"Tokyo Hills"就活生を応援する就活の会、10年代ごとに集う会(20、30、40、50、60回生代)、シングル会、そして現役高2年生と交流する東京研修など、首都圏の特徴ある取り組みが紹介されました。

懇親会では正木聖二実行委員長(高35)を中心に福岡からの応援も含めてチーム力を発揮した運営を行い、有志による筑高体操、応援団OBによる応援歌、抽選会など、さまざまな趣向を凝らした出し物があり、とても活力と母校愛にあふれる会となりました。

参加者からは「これまでにない大盛況」「感動!」「筑高生でよかった」などなど。

首都圏で活躍中の筑高同窓会生同士の強い絆を盤石の基盤に、首都圏同窓会のますますの躍進・発展を期待しています。

副代表 関岡康秀(高31)



結束力を見せつけた首都圏同窓会

# 学級日誌の記憶

平成17年卒(57回生) 岡崎 琢磨

作家という現在の立場から高校生時分を振り返るとき、ひとつ、忘れがたいエピソードがある。中学生の頃はとにかく《出る杭は打たれる》と思っていて、目立たないことだけを心掛けて三年間を過ごした。高校に入ると周りの人間に恵まれ、ようやく僕は、《人は自分の思うように生き、自由に振る舞っていいのだ》という、人としてもっとも基本的なことを知った。それまでの反動もあつてか、いかにおもしろおもしろく杭を出せるか、といったことばかり心血を注いでいたような気がする。

三年生になったある日、日直として学級日誌を書くことになった。A4の幅にたかだか五、六行のスペースさえ、僕は裏面に取組もうとせず、過去には白ひげの老人を描いた下手くそな絵のそばに「文字(神)と書き添えたものを提出して、担任に怒られたこともあった。この日も僕は軽い気持ちで、そこにごく短い物語を——小説とも呼べない駄文を書いた。確か、みんなと一緒に回っていると信じていたのに、実は機構に組み込まれていなかった、歯車の迷走だったと記憶している。

驚いたのは翌朝だ。朝礼の際に担任が、「岡崎が昨日、日誌に小説を書いた」と言った。当時の担任は国語教師だった。さすがに怒られるのか、と思いきや、担任はこう続けたのだ。「面白かったから、今から読んでみる。『僕は歯車です——』」

「たまたま」「やめてくれ!」と叫び、何とか音読は阻止した。僕は悪ふざけのつもりで書いたのだ。褒められようなどとは夢にも思わなかった。そんなものを書いたことを初めて後悔しつつ、あとで日誌を開くと、担任からの返事の欄に「筒井康隆を彷彿とさせる」とあった。ちょうど筒井康隆の某作品を読み終えたばかりだったので、その慧眼にも恐れ入ったものだ。

あの頃は、自分が将来作家になるなんて考えもしなかった。ただし、音楽を生み出すことで生きていきたいとは公言していたし、大学受験の折などは同行した友人に対して「音楽がだめになっても『じゃあ次は小説書く』とか言っただけ」との自己分析を披露していたくらいだから、思い描いたものからそう遠くない人生を歩んでいる、と言えるかもしれない。それはとても、とてもとても幸せなことだ。

たとえばあの朝、担任が僕の書いたものをただの悪ふざけとみなして叱り、または一笑に付していたなら、その後

の僕は小説を書く気になっただろうか、と考えるのだ。あれは作品と称するものおこがましい代物だったが、そうした創作物を教師が、あるいは友人が、作品として尊重してくれるだけの空気が母校には——いや、少なくとも僕の周りにはあつた。だからこそ、僕が大学を出て数年間、フリーターの身分に甘んじた時期も、高校の友人は誰一人として眉をひそめずについてくれたし、作家になるという僕の目標の実現を、下手すれば当の僕自身よりも強く信じていてくれた。同窓会などでお会いする機会があると、応援してくださる先生も少なからずいた。そんな人たちに囲まれて高校時代を過ごしたことはこの上ない幸せだった、との思いは、作家になることができた今だからこそ、日を追うごとに強くなり続けている。

## 略歴

京都大学法学部卒。  
二〇一二年、第一〇回『このミステリーがすごい!』大賞・隠し玉として、『珈琲店タレーランの事件簿』また会えたなら、あなたの淹れた珈琲を(宝島社文庫)でデビュー。  
本作は発売から三ヶ月で四十万部を超えるベストセラーとなった。

# 記念館からのお願い

筑紫中学校や昭和30年代以前の高等学校で使用した学用品・服・写真・生徒手帳・各種証書など、母校の歴史を語る資料、同窓生の著作物などご寄贈いただけるものがありましたら、同窓会事務局にご連絡をお願いします。

資料として展示や保存を考えています。

(同窓会への連絡先は会報題字下に記載しています。)

堤 一弘(高32)

### 大人の修学旅行

われわれ、高31回生は5年前に同窓会総会の幹事を行って以来、毎年秋に「大人の修学旅行」と称し同級生で一泊温泉旅行を実施している。一昨年は別府に行き「来年は海外に行こうぜ」という意見も出たので、昨年は総勢19人で9月15、16日に「思い切って九州を飛び出し」山口へ向かった。瓦そばや唐戸市場の新鮮な海産物に舌鼓を打ち、秋芳洞や角島を観光した。50歳も過ぎると、みんな社会的地位もそこそことなり、職権乱用(?)で会社の取引先などを駆使し9月の連休にもかかわらず素晴らしい宿を手配し、おまけに強要したのか酒の差し入れまで届いていた。宿では全員浴衣で大宴会。



山口を訪れた高31回生たち

もちろん最後は「校歌」で締め。その後は部屋に集合し「枕投げ」ならぬ「パットゴルフ大会」や、残念ながら酔ってしまつて先に就寝してしまつた同級生の部屋にこっそり忍び込み顔にマジックで落書きをしたりとまさに「高校時代」を彷彿とさせる「修学旅行」となつた。毎年グレードアップし続ける「大人の修学旅行」。来年は「いずこへ?」内橋裕之(高31)

### 傘寿記念同窓会開催

福岡リーセントホテルで、平成24年9月15日(土)午後3時30分より、同窓会本部から門司稔会長、田中義明前会長、加藤久嘉事務局長の3人の来賓を仰ぎ開催された。東京より3人・神戸より1人・熊本より1人・北九州より1人の計54人の参加となつた。石橋憲行代表幹事のもと新幹事体制での2回目の光燦会同窓会であったが、同ホテルは柳雅美幹事(学年監事)の出身母体とあつて、現役で後輩の岩本修支配人とのコンビもうまくいき、美味しかった皆さんの食事を共にし、旧交を温めることができた。

### 入学50周年同窓会

高校17回の同窓会が昨年5月26日、福岡市の西鉄ソラリアホテルで開かれました。今回のタイトルは「福岡県立筑紫丘高等学校17回生入学50周年記念大同窓会」とした。本来なら前年開催すべきところ、1年遅れの開催となつた。前年10月からクラス幹事会を5回開き、準備を進めて当日に至つた。準備の途中の気懸りは、宛先不明で返送された人、病気のため出席できないと連絡をくれた人のことであつた。出席者は111人。開宴すると、すぐに談笑の輪が広がり、みんな50年前の筑高生に戻つていた。時間の過ぎるのを惜しみつつ、最後に記念撮影。今回は古稀を迎える年に開くことを約束して閉会。(松崎芳之・高17)



福岡県立筑紫丘高等学校17回生入学50周年記念大同窓会

### 短歌甲子園で優秀作品賞

2年薄田さん

昨年8月24、26日、岩手県盛岡市で開かれた第7回全国高校生短歌大会(短歌甲子園2012)に文芸部が個人、団体戦に出場し、薄田真歩さん(2年)が個人戦2位となる「優秀作品賞」を受賞しました。



薄田真歩さん

短歌甲子園は今年で第七回を迎えました。予選を勝ち抜いた全国36校の高校から若き歌人たちが、石川啄木ゆかりの地である盛岡に集います。試合は3日にわたり、3人1チームの3本勝負で行われる団体戦と、個人戦が行われます。短歌を詠む際には題が与えられ、生徒は啄木にちなんで3行書きの歌を制限時間内に詠みます。1日目には啄木ゆかりの地を巡る題詠ツアーに参加しました。

私は、個人戦で「直角」という題で「直角の定規にびたりとあてはまるそんなキレイな私じゃないの」と詠み、優秀賞を頂きました。様々な面で「いい子」でいることを求められ、それに応えようとする私たちですが、本当は道徳の教科書に出てくるような

### 部活動報告

「いい子」なんかじゃなく、いびつで不細工で汚いところもあつて、大人が期待するようなできなかった子ではありません。それでも私たちは笑つたり、泣いたりして生きています。いい子じゃなくてもいいんだ、いびつで何が悪い!といった感情を歌にしました。もちろん筑高はずばらしいところなので、そんなことはあまり感じませんが、主に中学生の時の話です。

短歌を詠むことを本格的に初めてからまだ日は浅いのですが、優秀賞というすばらしい賞を受賞することができてとても嬉しいです。部活動として短歌や俳句に取り組むようになったのは先代からですが、今回の短歌甲子園への出場で、運動部や文化部が輝かしい成果を残している筑高に新たな分野を切り開く第一歩となれたと思います。来年もぜひ出場して、筑高に歴史を刻みたいのです。

### 部活動報告

平成24年度も多くの部が県大会に進み、日ごろの成果を発揮しました。中でも陸上部はインターハイ(全国高校総体)に出場。北部九州大会で3位入賞を果たしました。水泳部、山岳部も前年度に引き続き九州大会に出場するなど活躍しています。

陸上競技部 3年11組 富田亮平 インターハイ 男子八種競技27位 インターハイ予選(北部九州大会) 男子八種競技3位



水泳部



陸上部

僕は新潟で行われたインターハイに出場しました。この大会には一人の力だけでなく、指導してくださった先生方や心強い応援をしてくれた仲間たちのおかげで出場できました。本当にありがとうございました。大会では、全国大会というプレッシャーと、自分自身の心の弱さを再認識し、そして競技の楽しさをあらためて感じました。後輩のみなさんの来シーズンの活躍に期待します。

来年もインターハイ出場のチャンスがあるので、悔いが残らないようにこれからも頑張っていきたいと思います。

山岳部 3年11組 濱崎 敬 インターハイ予選(九州大会) 3位 大分県の九重山系で行われた九州大会において、前年度に引き続き入賞することができました。これもたくさんの方々から応援があったからだと思います。学校の友人だけでなく、山で出会った方々などが筑紫丘と書かれたザックやユニフォームを見て応援してくださいました。ありがとうございます。新人戦県大会で優勝した後輩たちにはぜひインターハイへの切符を手にするのを期待します。



山岳部

### 東京研修について

第2学年主任 不老 貴規(高42) 平成24年8月6日、8日の二泊三日の日程で実施しました。参加者は160人で、本校生徒、保護者の関心の高さがうかがえました。



東京研修

初日は数グループに別れて企業訪問に行きました。各企業では、会社概要や企業理念のほかに東京で働くということ、社会人から高校生へのメッセージ等、さまざまな観点から話しをしていただき、

生徒にとって大学の先にあるものを感じる貴重な経験となりました。二日目は東京大学のオープンキャンパスに全員参加をしました。日本を代表する大学の模擬講義や施設見学等有意義な時間を過ごしていました。そして、その日の夜、望月様、関岡様をはじめ、関東在住の同窓生の皆様との懇談会を実施させていただきました。社会人の方、大学生の方など約40人の方に出席していただき、生徒たちは食い入るように身を乗り出して聞いていました。もつと時間があれば、と最後は時間が惜しまれる雰囲気になりました。最終日は、大学生の同窓生に各大学の案内をしていただきました。

### お詫

第51号の5ページ「日本スポーツグランプリ」受賞の記事で、「:勤務の都合で長時間でなく:」は「:勤務の都合で長時間でなく:」の誤りでした。訂正してお詫びします。

### 鈴木さんが優勝 第31回ゴルフコンペ

昨年10月17日(水)、福岡市の筑紫丘ゴルフクラブで124人(32組)が参加して第31回筑中・筑高同窓会ゴルフコンペが開かれました。

あいにくの土砂降り、開催さへ危ぶまれましたが、予定通り午前8時に第1組がスタートして、コンペが始まりました。午後からは雨も上がり、水はけのよいコースのおかげで全員が無事ラウンドを終えました。

今回は表彰式を分離し、夕方から八仙閣本店で開催しました。懇親会だけの参加者も含め95人が出席。RKBアナウンサーの葉山さつきさん(高25)の司会役で、門司同窓会長がいさつ。表彰式に

移り、賞品が当たった人の名前が呼び上げられるたびに歓声が上がります。会場全体が盛り上がりました。

### 第21回同窓会 ゴルフコンペベストテン

|     |           |
|-----|-----------|
| 優勝  | 鈴木正伸(高4)  |
| 準優勝 | 財部道郎(高21) |
| 3位  | 澤村昌俊(恩師)  |
| 4位  | 石見良一(高29) |
| 5位  | 加藤勉(高15)  |
| 6位  | 四島英毅(高15) |
| 7位  | 葛山秀一(高31) |
| 8位  | 光安兼則(高12) |
| 9位  | 堀勝(高8)    |
| 10位 | 飛永正浩(高9)  |

### 今後はフェイスブックで 同窓生の催し盛ん

同窓会事務局には、同窓生によるコンサートや劇、作品展示会などの案内が送られてきます。会報でお知らせしようにも年2回(1、6月)でほとんどが間に合いません。そこで、今後はフェイスブック(筑紫丘高等学校 A I I Members)でお知らせしたいと思えます。ぜひ、ご覧下さい。

昨秋、寄せられた催しは次の通りです。(敬称略)  
▽望月未希矢(高56) ピアノ演奏「佐々木洋平・望月未



夫婦で写真展を開いた増田さん

### 教育支援基金受付名簿

平成24年4月1日〜平成24年11月30日掲載は受付順

- ▽大津眞理子(高24)▽三浦省三(高24)▽西山純子(高8)▽日高妙子(高7)▽田中義明(高9)▽門司稔(高13)▽川野修(高15)▽有志一同(高31)▽松浦ひとみ(高30)▽阿部憲司(中10)▽波多江良恵(高7)▽高橋ヨシエ(高7)▽内田唯史(高24)▽幸村泰(高24)▽橋本昌和(高24)▽三久保道(高24)▽村岡敬子(高24)▽齋藤豪(高24)▽賀茂俊雄(中15)▽川本勝正(高7)▽木村福正(中15)▽山崎照子(高7)▽大部喜代(高7)▽村山佳朗(高7)▽廣田武夫(高6)▽親泊ひろ子(高24)▽森田英徳(高24)▽渡辺淳子(高24)▽有志一同(高14)▽萩野博司(高7)▽柳原利光(高7)▽常任幹事3名▽光燦会(高3)▽養父規幸(高24)▽大野耕作(高24)▽飯田重孝(高5)▽松尾清幹
- ▽池田成志(高33) 俳優「満月の人よ」出演。10月7日大野城まどかぴあ(大野城市)▽山本重津子(高34) オープエ奏者「歌唱コンサート・愛とやすらぎの時間」。10月13日九州キリスト教会館(福岡市)▽中西和久(高23) ひとり芝居「しのだづま考」。10月26、27日住吉神社能楽殿(福岡市)▽佐藤勝美(高8) 俳優「新派特別公演「麦秋」」出演。11月20〜25日博多座。▽増田俊次(高21) 写真「増田哲子・俊次写真展」出会いとして、これから。11月9〜15日富士フィルムフォトサロン/福岡

### 学徒動員、心を慰めてくれた桜

今はどうなっているのか

福岡市長賞(随筆の部)受賞  
の豊原清臣さん(中14進卒)

道路の拡張で伐採の運命にあった松原(ひばる)桜を短歌のやりとりで守った挿話を語り継ぐ「松原桜賞」。生徒の

(高7)▽桂植男(高7)▽白水満智子(高7)▽笠元喜(高7)▽原良人(高7)▽中村榮宏(高7)▽富永純純(高7)▽永隈嘉昭(高7)▽石橋俊男(高7)▽光安純子(高7)▽行友雅浩(高7)▽小田良高(高7)▽磯田恭子(高7)▽飛永靖男(高7)▽田中喜治(高3)▽森住晃(高3)▽江元江津子(高7)▽新開範正(高7)▽増野

何人もが受賞しているが、福岡市早良区西新六丁目の豊原清臣さん(85・中14進卒)が平成23年に随筆の部で福岡市長賞をとっていた。

豊原さんは2年9カ月前まで西新で長年小児科の医師をし、忙事の日を送っていた。受賞となった「戦争と桜」は、戦時中、進学した旧制佐賀高校の動員先での出来事にフラッシュバックする。

幼い頃からテレビで「笑点」を楽しみに視(み)ていた。「この話の落ちは…」と考えながら、わくわくして落語を聴いていたものだった。そんな私にとって、今回の芸術鑑賞は楽しく、懐かしさを感じる心地よいひとときだった。

この心地よさはいつたいてどこからくるのか。今のお笑い番組とは違う笑いがあつた。人をこけおとして笑いをとる今どきのお笑い番組を視る度に、私は不快になる。これが今の日本の文化なのかと思うと悲しくなる。しかし、今回の落語の笑いには、品があり、言葉の美しさや巧みさがあつた。言葉を巧みに操り、落ちへと。そして、笑いへ。まさに言葉の作品であつた。

落ちのおもしろさだけではない。落語で使われる小道具は扇子と手拭いだけ。一人の落語家が何役も務めながら話を進める。動く範囲は座布団の上だけ。なのになぜこんなにも情景が目に浮かぶのか。もちろん落語家の話のうまさもある。しかし、それだけではないように思う。落語には私たちの想像力をかきたて、見えない映像を心のスクリーンに映し出す力がある。テレビ、インターネットなど映像に頼りがちな生活をおくっている私たちに、落語は言葉から広がる世界のすばらしさをあらためて教えてくれた。

### 宴座

10月15日、本校で芸術鑑賞が行われた。「学校寄席」と称して落語を鑑賞した。

短い命とはいえ、どれほど僕たちはこの桜に力を与えられたことか。今までのようなものがあるとも考えないやられていた。

「筑紫丘高の後輩が松原桜賞に多く入賞されており、心のつながりを感じる」と連帯感を持たれる。



第2回松原桜賞の随筆の部で「福岡市長賞」を受けた豊原さん

大谷希幸(中18)

梶由紀子(高32回)